

平成19年度第2回学生実験

今年度2回目の学生実験が6月13～14日に行われました。実験の内容は、前回と同じです(Goat Bulletin vol.13をご覧ください)。



畜産資源の学生実験は、簡単に言うと反芻獣の胃袋の中で、何が起きているのかを知ることが目的です。

第一胃内微生物(プロトゾア)の観察・計測や、本体である山羊の行動(定点)観察、試



験管内に模擬的に作った第一胃環境の中でのガス発生計測など、いずれも体力的・時間的になかなか厳しい



人恋しくてケージから抜け出そうとするウラドラちゃん

実験です。でも、畜産動物である反芻獣を知るためには、とても大切な基礎実験でもあります。『草から肉や乳などのたんぱく質を生産する不思議』を知るためのはじめの一步です。あんなに小さな微生物の働きによって、私たちが普段口にする乳や肉がもたらされているのかと思うと神秘でもありますね～。私はただ山羊の反芻している姿を見ているだけでも、心が和みますが…。

実験後に寄せられた感想の中には、大変だったという意見が多くありましたが、中には山羊と戯れたかったという『山羊好きさん』もいたようです。動物園まで行かないとなかなか触れ合えない山羊ですが、実は農学部構内にいますので、「山羊と触れ合いたい!」という方は、ぜひ畜産部の研究室のドアをノックしてください。実験中でない限り、山羊と触れ合うことができますよ。



目次:

山羊の蹄の話	2
腰麻痺予防再開	2
畑その後	2
運と不運について ～広岡先生の随筆～	3
中東に行ってきました 一動物編一	4
お知らせ	5

「霜降り肉は突然に・・・」

ある日、突然、8kgもの霜降り肉が研究室に送られてきた。すき焼き用肉で素晴らしいサシの入ったまさしく一級品。



しかし、その肉には但し書きが・・・『冷凍保存や持ち帰り厳禁。今日中に全部食べきるように。』ふ、なんて

こった。この食いしん坊揃いのチクシ研に挑戦状とはな(*´ー`)。美食ハンターの名にかけて8kg全部残らず食い尽くしてやるぜ!!と、その足で椎野通信兵は隣の生殖研究室に応援を頼みに行った。「た、助けてください～～(´o´)」やっぱり残すのMOTTAINAIもんね。児嶋衛生兵の頑張りで急ピッチに進むパーティーの準備、人も続々集まりだす。始まりはいつもすき焼き。熊谷先生と南先生の二人の鍋奉行により作られたすき焼きは絶品で、突然舞い込

んだ幸せに皆感激のご様子。1パック限定の卵は開始わずか15分で全滅してしまった。人がさらに増え、鍋一つで足りなくなったのを気にホットプレート焼肉の会が開始される。おろしポン酢や焼肉のタレで食べるお肉もこれもまた絶品。戦場で幸せに酔いしれる。お腹も膨れ、西尾軍曹と傭兵リカド東郷氏の到着を見届けたところで椎野上等兵は戦線離脱した。この時点でまだ3kgほどの肉が残っている。・・・生き残りの児嶋2等兵の証言『ええ、食べきりましたよ。意外と8kgって無くなるもんですね。(もっと肉送って来い)って言うてる人までいました。まあ、その後、焼肉よりも熱い戦いがあったみたいですけど。。』どうやら肉は食べられても、但馬牛にだけは誰も勝てないらしい(了)



梅雨に入り、なんとなく体調がすぐれない感じがしませんか?そんなあなたは立派な山羊好きさんです。今年の梅雨は、四国で少雨、九州地方で集中豪雨と各方面でいろいろな被害が出ているようです。京都は、日曜日のたびに雨降り、なんか損した気分になります。研究室(5階)の窓からは、今日も降りしきる雨と、立て替え工事の音が響いています。こんなときは、どこかへ遠出するとかみんなで盛り上がるとか、わくわくすることを探したくなりますね♪

山羊の蹄の話



6月上旬に、2回目となる山羊の削蹄(爪切り)講習会を開催しました。前回の講習会が昨年7月中旬の開催だったので、約一年ぶりの開催となりました。あまりに久しぶりで、すっかり削蹄の方法を忘れてしまった人も多かったようですね。でも、新しい削蹄ばさみが導入されて、切れ味抜群でした。

というわけで、今回は山羊の蹄の話をしたと思います。山羊の蹄も人間の爪と同様、放っておくとどんどん伸びてきます。野性の状態では、移動距離が長く、岩場などにいることも多いため自然に削れますが、舎飼いの場合はなかなかそうは行きません。せめて2ヶ月に一度はチェックして、伸びていたら削蹄してあげましょう。山羊の肢をよく見ると、爪先で立っていることが分かります。ですから蹄が伸びてくると、全体重が伸びた蹄にかかることとなります。その結果、蹄が曲がってしまったり立ち方が悪くなったりすることがあります。雄の場合は特に注意が必要で、後肢の蹄が伸びることにより、後肢で立てなくなり交尾行動ができなくなることもあります。また床が湿った畜舎で飼われている場合には、蹄がふやけ、ちょっとした事から雑菌が入って様々な「蹄病」を起こすことがあります。牛の削蹄師をしている友人に話を聞くと、牛の蹄病は意外に多く、乳生産や全身の健康状態にまで悪影響を及ぼすことも珍しくないそうです。実際に酪農の現場では、蹄病による損失が乳房炎や繁殖障害よりもずっと大きいという報告もあります。山羊の場合は、牛と比べればずっと簡単に削蹄ができますから、管理の基本と言えます。

さて、では実際にどうやって削蹄するのかというと、使う道具は先の湾曲した削蹄ばさみです。削蹄ばさみとは言っても特別なハサミが必要なわけではなく、園芸用の剪定ばさみで代用



写真① 山羊とは向かい合わせ

できます。写真①のように山羊と向かい合わせに立って、肢を後ろ向きに曲げて持ち上げます。ハサミの凸側を蹄の外側に向けて持って切ると簡単に切ることができます(写真②)。蹄の内部にはたくさんの血

管が走っていて、蹄が伸びすぎると、蹄に栄養を補給するために血管も一緒に伸びてきます。伸びすぎたり、放っておいて変形してしまった蹄を切る時は、一度に切らずに、様子を見ながら徐々に短くして形を整えましょ



写真② ハサミの持ち方

(写真③)。万が一血管を切ってしまうと思いのほか大量に出血しますのでビックリしますが、落ち着いて圧迫したり、焼きゴテを当てたりして止血しましょう。動物病院でクイックストップという爪きり用の止血剤を売っているので、準備しておくといいかもかもしれません。(ようこ)



写真③ 左右のバランスを確認



腰麻痺予防再開

暖かくなって、蚊が飛び始めたのを受けて、今年も腰麻痺の予防接種が始まりました。4回生の児嶋君も注射器や薬液の取り扱い、皮下注射の方法を習って、山羊に注射しました。現在使用しているのはアンチリコン(グルコン酸アンチモンナトリウム)です。投与の際は、指示書をよく読んで下さい。

収穫祭

5月頃から動物系の研究室の人たちと畑で栽培していた野菜で収穫祭を行いました！今回はトマト、きゅうり、インゲン豆を収穫し、生殖の研究室の南先生による自家製のビールと共にいただくことにしました。収穫量は予想通り、かなり少なかったのですがトマトは色も大きさもそこそこで、味も良かったです。しかし、きゅうりとインゲンは…。南先生のビールはとても自家製とは思えない出来栄で、非常においしかった



です。自家製ビールは初めて飲んだので、新鮮でしたね。ただ、これだけでは食べ物、飲み物ともに足りないのので、いつもどおり買出しで補いました。さらに、海洋の研究室から西村君、大友君が海苔と海老を差し入れてくれたので、かなり豪華な飲み会になりました。ここまでくるともう収穫祭としての原型は留めてませんが…。それでも複数の研究室の人たちと楽しく飲み会ができたので、今後も収穫祭ができるように野菜の栽培に力を入れていきましょう。(記者N)

連載企画「広岡先生の随筆」

②運と不運について



人はうまく事が運べば運がよいと喜び、悪い事が続くと運が悪いと嘆く。それでは、このように人の人生を左右するような運の良し悪しは何によって決まるのであろうか。



私の経験則から言うと、誰にでも幸運は等しく訪れるのではないかと考えている。そして、運が良いように見える人は、幸運が訪れたときにその運をつかみ、運が悪いように見える人は、幸運が訪れてもその運を見つける事ができず、そのまま見過ごしているのではないかと考えている。つまり、等しく訪れる幸運をいかに確実に見つけ、自分のものにするかが、その人の運・不運を決めているのではないかと思えてならない。

それでは、どうすれば幸運の訪れた事に気づき、その運を上手くつかむことができるのであろうか。運・不運が最も分かりやすい局面は、選択の場面である。人は、しばしば人生を左右するような大きな選択を迫られるときがある。そしてその選択いかんによって、その後の人生が大きく左右されることがある。私の場合、これまでこのような場面に遭遇したときには、かならず自分で積極的に選択を行なうようにしている。他人任せにする、あるいは消極的になるに任せるのではなく、必ず自分で決断をするようにしている。それは、自分で選択する限りにおいては、自己責任と言う事で納得でき、後で後悔の念を持たずにすむからである。その選択の際に私が基準としていつも考えていることは、「流れ」を読むことである。この「流れ」というものは、まったく科学的ではないのであるが、「神の示唆」のようなものである。たとえば、我々はしばしば偶然に遭遇する。1回の偶然は単なる偶然であるが、それが重なると必然ではないかと思えるときがある。選択を迫られたときに、時として、選択肢の一つが多くの偶然の上に存在するケースがある。そのようなときには、必ずその選択肢を選ぶようにしている。そうするとき、これまでの人生において失敗したケースはほとんどない。

その一つの例が、大学院の選択であった。その当時、私が家畜育種学研究室(今の動物遺伝育種研究室)に4回生で分属していたが、ちょうどその年に熱帯農学専攻ができ、その中の1研究室に畜産資源学研究室が作られた。そしてその初代教授に、農林水産省から山田行雄先生が着任された。一般に山のものとも海のものとも分からぬ、しかも大学院のみの専攻(今は、すべて大学院がベースで学部は付属であるが、当時は大学院のみの専攻はほとんどなかった)に行くのは、非常に勇気のいることであった。しかし、私は次のように考え、3つの偶然が重なったことを根拠に、その新しい研究室を大学院で選ぶことにした。その第1の偶然は、その年にその研究室が作られたことである。私は浪人をしていたため、もし現役で京都大学に入学していたらそのような研究室には決して所属できなかった。つまり、浪人したためにその研究室に入るチャンスを得ることができた。新しい研究室ができることは非常に珍しく、また畜産分野の研究室ができることは偶然としか思えなかった。第2の偶然は、山田教授が家畜育種の分野の研究者であった点である。畜産資源学ということで、どの分野の教授が来られてもおかしくなかったにもかかわらず、家畜育種の分野の教授が着任されたことも偶然に思えた。第3の偶然は、山田教授の代表的な研究に遺伝と環境との交互作用に関する理論があるが、私は卒業論文でその理論を使い分析を行なおうとしていた点である。

以上の3つの偶然から、大学院に畜産資源学研究室を選択することになり、無事に大学院も合格することができた。その後、大学院では、第1期生ということで学生数は少なく、少人数で密度の濃い教育を受けることができた。私は今でも、私ほど恵まれた環境で、良い教育を受けた学生はいないと信じている。また、結局、偶然が重なって、今の私がある。さらに言えば、その後、熱帯農学専攻で事務員として働くことになった私の妻とも巡り合うことができた。もし、私が大学院で今の選択をしていなかったならば結婚も今の生活もなかったに違いない。

私は、何かを選択する場面に遭遇したとき、できる限り偶然の積み重ねから見える「流れ」を探るようにしている。しかし、いつもそのような「流れ」を察知できるわけではなく、察知できる場合はむしろ少ない。しかし、「流れ」の上に立って選んだ選択で誤った選択はほとんどなかったように思われる。今回の話は、科学的でなく、おおよそ研究者の言うべきことではないのかもしれないが、私は運・不運について考えるとき、科学を越えた何かがあるように思えてならない。

「中東に行って来ました - 動物編 -」

巷でひそかに話題となっているこのコーナー、もう連載4回目です。「ヤギ通信」内のコーナーであるにもかかわらず動物が全く出てこないじゃないか！という批判もあるとかなんとか。なので、今回は少し旅行中に見かけた動物について紹介したいと思います。

☆街中でみかける動物



中東の街中でも、日本と同様に犬や猫の姿を良く確認できます。この地域はイエネコの祖先であるリビヤヤマネコがいる場所であるためか、野良猫達も顔が小さく、体も締まって筋肉質であり、ヤマネコとしての特徴を残しているように感じました。犬はいたって普通ですが、白砂漠近くの土産物屋で飼われていた犬のベスは、狂ったように僕らの足を甘噛みしようとして、本当に色んな意味で恐怖でした(°□°)；



☆働く動物



中東では、色々な用途で動物が使役に使われています。例えば、エジプトの街中では運搬用にリアカーを引いているロバを良くみかけます。体重100kgあまりの小さな体で人間を含む大きな荷物を運ぶ姿は圧巻。また、農村部では水牛が役用に使われているのを目撃しました。観光地でせせと働く動物は、ピラミッド付近のラクダ(ひとこぶ)、ヨルダン・ペトラでのロバや馬などがおり、観光客を背に乗せてスポットを回ってくれます。ピラミッドの近くでは警察もラクダに乗って巡回し



ており、ある警官に「お前達、ラクダ乗ってみるか？」と言ってきたので「ラッキー☆」と、お言葉に甘えて乗ってみると、突然マジな顔で「じゃあ5ポンドな」と言われてしまいました。なるほど、警官の小遣い稼ぎか。。。

☆野生の動物

旅行中それほど野生動物に出会う機会は無かったのですが、唯一、白砂漠でキャンプをした際、デザートフォックスと呼ばれるキツネに出会いました。北海道のキタキツネや中型犬よりも小さなキツネで、顔や耳が大きくとても可愛い風貌をしています。跡をつけて巣穴を発見し、生態観察をしてしまいました。また、哺乳類では無いけども、ヨルダンのジェラッシュ遺跡では大きなトカゲを数匹みえました。大きなトカゲというかむしろ小さなイグアナといった見た目僕には結構きつかったです(@_@)



☆畜産にかかわる動物



ヨルダンのワディ・ムーサーという町で、ヤギと馬を飼育している少年に出会いました。そのヤギは耳がだら～と垂れ下がり、毛色は茶色いものもあれば白いものもあり・・・どれも毛はとても長く光沢のある綺麗な毛皮をしていました。中東の街中を歩いていてインパクトを感じる物の一つとして「お肉屋」さんがいます。どの肉屋も軒先に毛皮を剥いだ枝肉、むしろ手足尻尾を切り取っていないので、枝肉でも無い肉の塊を吊るしています。大きさから察すると牛はあまりおらず、ほとんど羊のよう。少し裏通りに行けば、専門店でお肉以外の部分も売られており、モツやレバーなどの内臓やタン、豚足ならぬ羊足、果ては顔！まで。肉屋のおちゃんに、2.3kgはありそうなかいかいレバーを抱えながら「兄ちゃん、レバー買ってよ！安いよ！」と言われましたが、ジャパンのバックパッカーが異国でそんなでかいレバー買うか！と(心の中だけで)突っ込みました。



◎長らく御愛眼していただいたこのコーナーもついに最終回です。掲載ページも徐々に前進して、もうそろそろ表紙を飾るのかという風の噂もあっただけに残念ですが、今回、このコーナーを読んで少しでもエジプト・ヨルダン・イスラエルの良さを読者の皆さんに伝え、出向ききっかけを作る事が出来たらこれ幸いです。それでは、また会える日を！
(椎野)

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365
FAX 075(753)6365
http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

システム農学会の打ち上げ

5月末に開催された『システム農学会』の打ち上げのご案内です。話はずいぶん廻りますが、畜資のメンバーが当学会で会場の設営・運営のお手伝いをした慰労会ということでシステム農学会と広岡先生から少し補助を出していただけるそうです♪

開催日程：7月12日（木）午後7：00より

場所：暖包（ヤンパオ）

大いに盛り上がりましょう～！

イベント係

今月のお誕生日会

今月のお誕生日さんは、大石先生、レニンさん、田島君です。お題はチョコレートケーキ&チーズケーキです。7月11日（水）15：00からの開催を予定しています。変更等があれば、また連絡します。



イベント係り

暑気払いのご案内

今年も「いいお肉が食べられる」と好評の暑気払いの季節となりました。今月下旬の開催となりますが、詳しい日程は海外調査組の帰国を待ってから決定したいと思います。どうぞお楽しみに☆

2007年 7月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
1 塚原・椎野	2	3	4	5 大石・西尾 体重測定	6	7
8 大石・西尾	9	10	11	12 レニン・児嶋 体重測定・予防注射	13	14
15 レニン・児嶋	16	17	18	19 金島・菊原 体重測定	20	21
22 金島・菊原	23	24	25	26 竹内・塚原 体重測定・予防注射	27	28
29 竹内・塚原	30	31	8/1	2	3	4

編集後記 先日、鴨川と下鴨神社で蛍を見ました。夏の風物詩ですね。光が点いては消えるあの儚さが、なんとも愛おしい感じがします。人との出会いにもそんな儚さを感じるのか、ひと時ひと時を大切にしたいな、といつも思っています。昨年9月から当研究室で一緒に実験をしてきたフランスさんが、今月末に広島大学へ戻られるそうです。仲間が研究室を去るのは寂しいですが、古巣に戻ってまた大いに活躍していただきたいものです。京都へも時々遊びに来てくださいね！

(ようこ)